

■上川管内の状況及び学力向上策（小学校数：109校、児童数：3149人）（中学校数：60校、生徒数：3099人）

【教科全体の状況】

〔レーダーチャート〕

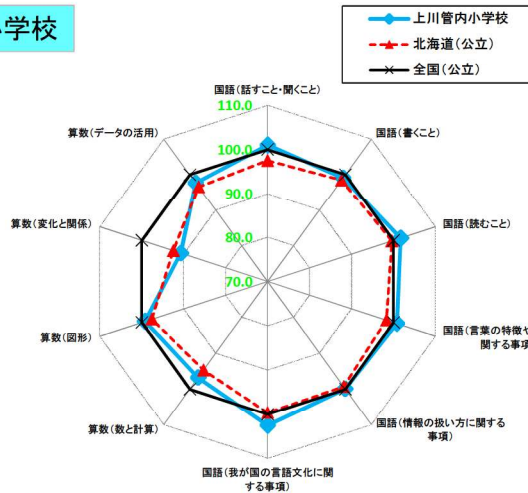
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況

（「管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100」で算出）

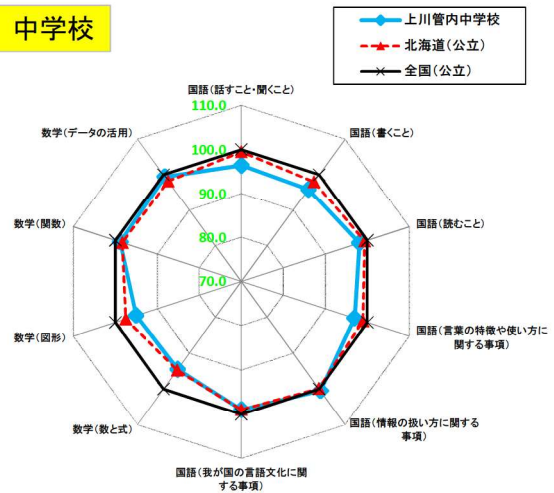
〔管内の平均正答率〕

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
上川管内	68[68.2]	61[61.4]	57[56.7]	51[51.1]
全国	68[67.7]	63[63.4]	58[58.1]	53[52.5]

小学校

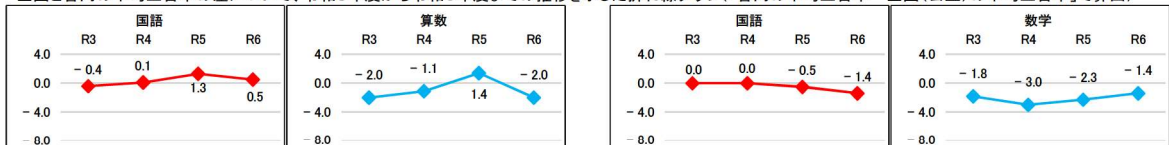


中学校



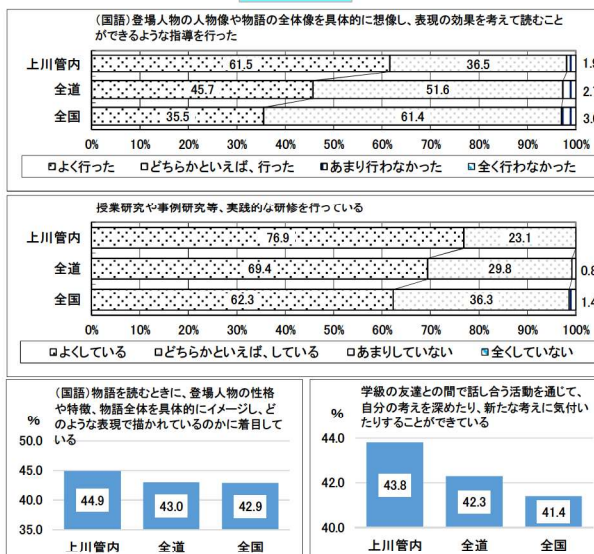
〔平均正答率の推移〕

全国と管内の平均正答率の差について、令和3年度から令和6年度までの推移を示した折れ線グラフ（「管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率」で算出）

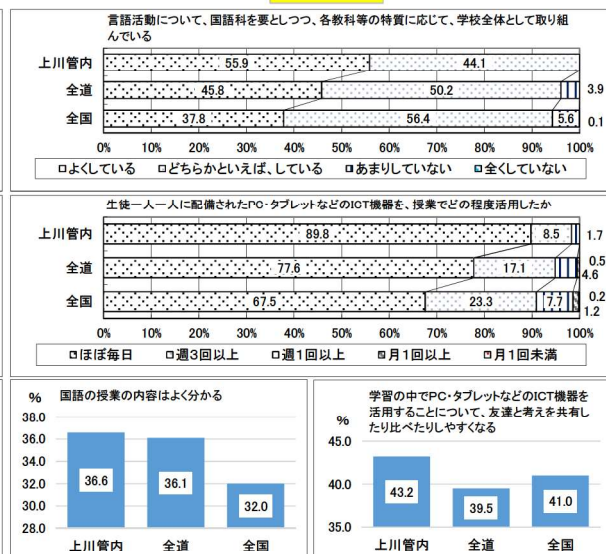


【質問調査の状況】

小学校



中学校



〔上記結果の考えられる要因の分析〕

小学校

多くの学校で、国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えながら読むことができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目すると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各市町村教育委員会等と連携した「エビデンスに基づく授業改革研修会」を実施したことにより、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているという回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

局独自事業「上川プロジェクトIPPO」におけるICT活用に関するオンライン研修を実施したことにより、生徒がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上川管内の学力向上策】

1. 管内教育の重点（学力）

- 教育課程の検証改善サイクルの充実
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ICTを活用した個別最適・協働的な学びの充実

2. 具体的な改善策

- 教育課程の検証改善サイクルの充実
 - ・「EBE協議会」を中心とした、エビデンスに基づく児童生徒の資質・能力の育成に向けた取組を推進する。
 - ・学校経営訪問及び学校教育指導訪問における各校の状況の把握と指導助言を行う。
 - ・市町村教育委員会を対象とした、全国学力・学習状況調査等各種調査結果の活用に係る協議会を実施する。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・各学校の校内研修の充実を目的とした、「上川授業改革担当者協議会」を開催する。
 - ・各学校のニーズに対応する学校教育指導訪問の実施形態を工夫する。
 - ・教員等の個別最適な学びに資する「テーマ別研修会」を実施する。
- ICTを活用した個別最適・協働的な学びの充実
 - ・各学校のICT利活用の充実を目的とした、「上川授業改革担当者協議会」を開催する。
 - ・教員等のニーズに対応する「テーマ別研修会」を実施する。
 - ・学びの質の向上を目的とした局独自事業「上川管内ICT活用促進事業～Next・IPPO」を実施する。

3. 具体的な取組計画

